



2014年  
11月20日  
NO.380

九州旅客鉄道労働組合  
福岡市博多区博多駅前2丁目3-23  
TEL 092-472-7950(代)  
URL http://www.jr-krwu.org  
発行人/許斐元文 編集人/木村智隆

## 2014年度年末手当交渉

# 2.57カ月分を12月10日支払いで妥結



回答書を受け取る許斐中央執行委員長(11月14日)

ヤマ場を迎えた11月13日、第8回中央執行委員会、第1回各地本委員長会議

交渉において組合は、これまで年末手当の支払月数を決定する上での指標としてきた第2四半期決算を踏まえ、組合員一人ひとりの努力の積み重ねにより得られた成果については、公正且つ適切に配分することや、今次年末手当交渉は、株式上場の実現に向けて、労使一丸となって会社施策に取り組めるか否かを左右する極めて重要な交渉であることなどを主張し、全組合員が納得できる回答を強く求めてきた。また、55歳以上の社員に対する加算措置についても、長年に亘り当社の発展に寄与してきた事実を踏

まえれば、基本給が調整されている実態において、相応の措置が必要であることなどを主張するとともに、嘱託再雇用社員及びパートナース社員への措置についても、得られた成果の配分については、雇用形態に関係なく全社員で享受すべきであると指摘し、改善を求めてきた。

しかし、九州地区においては景気回復が遅れていることや、基幹事業である鉄道事業収支が本格的に改善されていないこと、及び、通期の業績予想についても、営業利益については、動力費や修繕費の増により事業計画どおりを見込んでいたことなど、厳しい経営展望のみを主張する会社との認識が乖離し、極めて厳しい交渉を余儀なくされた。

こうした闘争を継続した結果、11月14日、会社から「基準内賃金の2・57カ月分を12月10日以降準備でき次第支払う」との回答を受けた。過去最高を更新した第2四半期決算での経営成績を背景に、組合員から強い期待が寄せられた中において、会社回答は到底納得できるものではないものの、前年実績を0・025カ月分上回ったことや、組合員の生活設計等を考慮し、席上妥結した。

また、中央執行委員会に対して地本・支部・分会から56枚にも上る檄布・FA Xが届くとともに、福岡・鹿児島両地本が中央執行委員会への激励を行うなど、組合員総がかりの闘争を展開してきた。

た55才以上の社員に対する加算措置及び、嘱託再雇用社員とパートナース社員の支払月数改善については、会社がこれまでの考えを崩していないことから、2015春季生活改善闘争において55才以上の社員の基本給支給率の改善と併せ、取り組みを強化することとする。

# 昨年度を0・025カ月分上回る

本日は、2014年度年末手当について、9月29日、「基準内賃金3・0カ月分、12月10日支払い」を要求し、10月30日の第1回団体交渉以降、鋭意交渉を積み重ねてきた。交渉では、上場の実現を目標に掲げるまでに成長することができたのは組合員の理解と協力の賜物であること、を重く受け止めるとともに、今後の社員・組合員のモチベーションの維持・向上を図るため、誠意ある回答を求める組合に対し、「鉄道事業の赤字は依然として改善されておらず、また、動力費や修繕費の増により営業利益は事業計画どおりである」として、厳しい姿勢に終始する会社と交渉は難航した。しかし、その後も粘り強く交渉を展開した結果、11月14日、会社から「基準内賃金の2・57カ月分を12月10日以降準備でき次第支払う」との回答を受けた。JR九州単体の第2四半期決算が、過去最高を更新したことを踏まえれば、回答は到底納得できるものではないものの、前年実績を0・025カ月分上回ったことや、組合員の生活設計等を考慮し席上妥結した。

### 2014年度年末手当の支払いについて

- 1 基準額
  - (社員) 基準内賃金に2.57(支払月数)を乗じた額とする。
  - (パートナース社員)
    - エキスパート・パートナース社員の支払月数は、2.57箇月とする。
    - パートナース社員(一般)の支払月数は、次のとおりとする。
 

雇用期間3年以上の者	1.93箇月
雇用期間3年未満の者	1.29箇月
    - パートナース社員(医療)の支払月数は、次のとおりとする。
 

雇用期間5年以上の者	2.57箇月
雇用期間3年以上5年未満の者	1.93箇月
雇用期間3年未満の者	1.29箇月
- 2 支払日
 

2014年12月10日以降準備でき次第とする。

**シリーズ第1回 新中期労働政策ビジョン**

## チャレンジ2018

—今後5年の到達目標と株式上場を展望した目標—

JR九州労組は、九州におけるリーディングカンパニーとして、私たちが将来において目指すべき雇用や労働のあり方を模索し、その実現を図るという中長期的な取り組みを指向し、「2008年新ビジョン」を策定しました。私たちは、このビジョンに基づき中長期的視点に立って、労使協議を中心としてその実現に向けた活動を展開してきました。

日本は現在、少子高齢化そして人口減少が急速に進んでいます。将来の推計人口を見ると、2010年に1億2,700万人程度であった総人口が、2050年には1億人を切り、700万人程度へと、今後40年の間に約25%も人口が減少することが想定されています。一方で、15歳〜64歳のいわゆる労働力人口は、2010年の約8,100万人から2050年には約5,000万人と、実に3,000万人もの減少となります。

こうした人口減少社会は確実に到来し、JR産業をはじめとした様々な産業がこのような人口減少社会に適合した構造転換が求められることになると想定されます。しかし、私たちはどのような環境の中でも日本社会を支え、そして豊かな社会を支え続け、そして、豊かな

(次頁に続く)

（前頁からの続き）

社会を後世へと引き継いでいく使命を今後も担い続けなくてはなりません。

そのためにも、これまで先輩諸氏が苦勞して蓄積してきた「人的資源」を今後一層有効に活用していくことが求められており、社会と労働者を結びつける企業活動の中で、如何に一人一人が意欲的に業務に向き合うことができるか、労働力人口が減少する段階ではその意義は一層重くなっています。

このような中「2008

年新ビジョン」の改訂期を迎え、1年をかけて討議を行ってきましたが、何より

目先の労働条件向上に拘るのではなく、つくる2016において具体的に記載された「株式市場」を見据えた将来展望を念頭においてあるべき働き方を明確化することとしました。

更にはすべての組合員に展開できるビジョンとなるよう、「2008年新ビジョン」を細部にわたり調査・検証を行ってきました。

「チャレンジ2018」は、賃金改善や労働時間短

縮・年間休日増など、到達すべき目標を明確にし、すべての組合員の皆さんと共に、次世代を見据えた具体的な目標づくり、要求づくり、そして「継承元年」としての役員育成も視野に策定しています。

本部は、今後、2015春季生活闘争をはじめとした諸改善活動を通じ、その早期実現に向け、精力的に取り組みを展開していきます。

※ 具体的内容・到達目標等については、次号以降シリーズ掲載します。

今回のI T F統一行動には、多くの平成採用組合員が参加し、「地球と人にやさしい鉄道」を自らの行動を通して学ぶ良い機会ともなった。

# I T F統一行動 各地で展開!

## 福岡地本

福岡地本では、10月7日(火)のI T F統一行動として、小倉駅前・小波瀬西工大前駅前・田川後藤寺駅前・博多駅前・鳥栖駅前・大牟田駅前において、活動に賛同していただいた友誼単産による駅頭チラシ配布行動を行った。行動にはJ R九州労組からは57名、貨物鉄産労から5名、J R九州労組地方議員団から5名が参加



また、当日は来春の統一

地方選の立候補予定でJ R九州労組が公認・準公認を決定した石松田川市議・田中福岡市議・原佐賀県議・松尾大牟田市議も参加し、各地でハンドマイクを片手に「地球と人にやさしい鉄道の利用」や「モーダルシフト推進」等を、街ゆく市民の皆さんに広くアピールを図った。

福岡地本では、今後も環境にやさしく、生活に密着した鉄道の役割を幅広くご理解いただくため、様々な運動を展開していく。

【通信員 森永 克章】

## 長崎地本

長崎地方本部は、10月7日(火)長崎駅前・早岐駅前に

長崎駅前においては、「長崎くんち」開催期間ともあって、多くの通行人がいる中、家族連れや、外国人の方へもアピールする事ができた。また、趣旨を理解していただき「お疲れ様です」との声を聞くこともできた。



## 大分地本

大分地本は、10月8日(水)18時から、国際運輸労連(I T F)が定めた国際行動週間(10月6日~13日)の統一行動の取り組みとして、大分県内の主要駅でチラシ配布行動を行なった。当日は、大分駅・別府駅・



## 熊本地本

熊本地方本部は、10月7日(火)熊本駅、上熊本駅・水前寺駅前にて、I T F国際

熊本の皆さんにもアピールができた。地方交通線では、自家用車の普及に伴い輸送人員も減少しており、不採算路線



## 鹿児島地本

鹿児島地本は、I T F国際鉄道行動日の10月7日(火)18時より鹿児島中央駅前・川内駅前・宮崎駅前の3箇所、駅頭チラシ配布の統一行動を行った。

当日は、地本役員・各分会の代表者を合わせ鹿児島中央駅前14名、川内駅前5名、宮崎駅前7名の計26名の参加があり、合わせて600



【通信員 青木 幹雄】

# 分会を訪ねて 船舶分会

## One for all, All for one

まず分会紹介の前に、非常に厳しい経営状況に陥っている「J R九州高速船舶」に對しまして、J R九州労組の組織を挙げての二度にわたる支援ツアーに、多くの組合員・ご家族の皆さま並びに、各友誼団体の皆さまにご乗船いただきました。この場をお借りしまして、厚く感謝を述べさせていただきます。有難うございました。

J R九州高速船舶の経営環境は、外交問題による日本人お客様の大幅な減少、原発汚染水漏洩問題による韓国人お客様の減少でピーク時の約半分まで落ち込み3期連続の赤字決算という厳しい状況で、さらに韓国大型客船転覆事故による日韓双方の渡航控え等により前年度に増して厳しい経営状況にあります。

船としての組織結成が課題です。現在、組織の要である分会書記長が向し、職場が遠くなったため情報伝達もままならず、分会運営にも苦勞しています。この「One for all, All for one」をモットーにお互いに助け合い組合の姿が見える運動を展開していきます。



枚のチラシを配布した。

なかなかチラシを手にとってもらえないなか、参加者は駅を利用される方や周辺を歩く歩行者に「地球と人にやさしい鉄道の利用」を訴えながら、一生懸命配布を行った。

今回の取り組みを通じて、私たち一人一人も鉄道の役割について再認識し、これからの組合運動に活かしていきたいと考える。

【通信員 青木 幹雄】